
Catch the eye 2017年1月

2017/1/3 穏やかに2017年
(火)

穏やかに2017年が明けた。京阪神はお天気に恵まれた。元日、今年も初日の出が望めた。気象庁発表の日の出時間前からカメラを手に待つ。

東の上空に何か光るものが見えた。セスナのようなものだった。ご来光を絶好のショットで撮るとるメディアのものか、はたまた、セレブのおたのしみか。空から眺められれば最高。

日の出時間から待つこと10分ほど、太陽の頭弦が見え始めた。デジカメの画面と実際の太陽を交互に見ながら、シャッターを一回、二回、三回…。そのうち裸眼では見られなくなり、カメラを目の位置に上げた。

一秒の何分か一の微小の緩やかさで元日の朝日が昇る。三が日の朝はこうして晴々としていた。2017年の始まりをを平穩に迎えた。一年をとおして、そういう年でありますように。



2017/1/6 ころ和む年初
(金) め

今日も晴れ。昨日は「小寒」、寒さはほどほど。ただし来週は気温の低い日が続くとか。20日の「大寒」の次は立春！

昨日の朝一番、京都の丸太町へ向かっていた。地下鉄車内、マナーモードにしてあったスマホが鈍く鳴った。駅に着いて不在着信の履歴にびっくり。ほぼ10年ぶりの知人だった。

電話のむこうは屋久島。大阪での事業は子に譲り、故郷で農ビジネスを展開しているとか。出会った当時にもらった「三浦和義写真集 世界遺産 屋久島」は今も事務所の棚に飾ってある。

「島を歩けばいくらでもお金になるタネがある。地元の人には全然気にとめてないけど」。大阪と行ったり来たりしながら、故郷の産物へ都市へ販売している。人生後期にライフワークを獲得したよう。いい感じ。

新年そうそう思いがけない声が届き、ころ和む年初め。

2017/1/11
(水)

満月前夜

グランフロント北館の屋上ガーデン。日の入りから夜になる直前の西空を東には満月前夜の月。ためしにスマホで撮影。デジカメよりきれいに撮れている。





2017/1/12
(木)

梨木神社

昨日も今日も冬晴れ。今夜は満月、きれいに見られるはず。毎年同じ神社へ参る「えべっさん」。最終日の昨朝一番、旧い笹をもって出かけた。新しい笹についているくじ引き券。今年は、一等賞。商品は大したことはないのだけど、係のお爺さんの、『あっ、出た、でた、一等賞！』の大きな声と手鈴の音が福賞。これは春から縁起がいい。

縁起といえば、ちょっと理解に苦しんだのが梨木神社。なんとマンションができていた。本当にびっくりした。先週仕事の帰りに京都御苑に入り、梨木神社へさしかかった時、石の鳥居すぐにグレー建物が見えた。萩が両脇に並ぶ参道だったところ。初めは神社の事務所かと思った。でもそんな外観ではなかった。2階だけだけど、どう見てもマンション。

えっっっ？ 本当に…？ 脇からしか社殿には行けないから建物の前には矢印の案内板が立っていた。それにそって歩くとマンションの勝手口のような門があった。そこにはマンション名の表札があった。いやー、こんなことしていいのかしら。他界したけど『日本の地霊<ゲニウス・ロキ>』の著者が見たら何と思うかしら。

ゲニウス・ロキはラテン語。ゲニウスの意味は「生む人」。そこからやがて「守護の霊」へ。ロキは地、場所。「ある土地から引き出される靈感、土地に結びついた連想性、あるいは土地のもつ可能性。その土地のもつ文化、歴史、社会的背景」をゲニウス・ロキを著者は語っていた。ましては神社の地となると。

そもそも梨木神社は鬼門の方角に、邪気を祓うために建てられたはず。それを遮るようにマンションを建てるとは。たぶんここに住んでいる人とは話は合わないなあと思ったのです。

2017/1/17
(火) 22年前

室内の13度、昨日は10度だった。昨日は本当に寒かった。今日はまだ耐えられる。オイルヒーターでは追いつかない寒さ。22年前もそうだった。14日から3日間のことをよく憶えている。

これまで何度も書いているけど、22年前のJ大地震の時、その前の3日間は本当に妙だった。土曜に大阪市内でも雪がふり、少し積もった。

翌日曜に天気が回復してくるのかと思ったら、空はどんよりしたままだった。曇り空には違いないのだけど、いつもと違う感じがした。知人のお店で新年会があり、その行き道で、ヘンだなあと思った、空が。お店について、荷物類はテラスに置くように言われ、外に出た時にもまたヘンな空だなあ…。2回のシーンが今もよみがえる。

他にも2つほど気になったことがあるが、それもこれも、天と地はつながっているから、大地の激震の前ぶれを空や空気が映していたのではないかと思う。22年も前のことになるけど、たぶんずっとよく憶えているはず。

2017/1/20
(金) 今も忘れない

ぱらっと降っては晴れ、晴れてはまたどんよりして、雨が降る。そしてまた晴れ。そんな今日は大寒。帰りまで晴れていますように。

来週28日は旧暦の元日。年末の今週はうまい具合に時間がある。そこで書類整理などの片づけをした。南船場時代のリーズレターをファイリングし直し、名刺の保管位置を変えた。

こういう作業はけっこう時間を使う。単に捨てるだけなら、早い。でも日記と同じように、中身を見て、手がとまる。じっくり見て、読んでしまう。当時のいろいろな場面がよみがえる、つなぎ合わせる。

事務所開設当初の「新聞広告事件」、朝日と日経の代理店の担当者は今どうしているだろう。担当者さえ思いも寄らなかったのに、広告掲載を拒否された一件。

この顛末は何度か起業セミナーなどで話してことがある。最終的には掲載できたが、ダメを伝えにきた日経代理店担当者を今も忘れない。事務所に入ってきて、正面に見た彼。

まるで彼本人が宣告されたよう。哀しい目をして、現実を受け入れられない風で、この事実を身内にどう切り出そうかと言いついでいるような様子。入口で立ち止まったまま。

先に朝日からダメの連絡がきていたので、彼の表情ですぐにわかった。こちらから声を出した。「ダメ?」。入社してまだ2、3年ぐらい。若い彼は頷いただけだった。

彼は3年もたたない内に会社を辞めて故郷に帰った。事務所を移転する時に当時のお礼も兼ねて会社へFAXを送った。すでに退職していたけど、いい形で辞めたのだろう、元同僚が転送してくれた。

ほどなく本人からFAXが届いた。九州の出身だった。帰っていたとはびっくりした。でも何となくわかる気がした、彼なら。これが1998年終わり頃の話だから、20年経った。さて彼は今、どうしているだろう。

「ロボットと未来社会」

昔のファイルを整理していたら、20年前のパンフレットが出てきた。日本機械学会創立100周年記念国際シンポジウム。今みても、よくぞこういう人たちが一同に集ったと驚く登壇者たち。AI社会が現実になる今、あの場を共有したことが感慨深い。*最終ページにプログラム



2017/1/28 旧暦元日の夜
(土)

旧暦でも新年が明けた。穏やかな日和だった。朝の祭事を終え、お墓参りをして、一段落した夕方の空。



2017/1/30 一線を画する
(月)

昨夜から雨。高めの気温もこの雨の後はふたたび寒気の予報。旧暦の新年も明け、週末は節分、立春。いよいよ新しい春めぐる。

季節は陽気をおびるけど、人間世界は不穏な空気が漂い始めている。昨年未来、『凡庸の悪』が頭に浮かぶ。

ずいぶん前の新聞で、どこかの大学の先生が、経営学なんていう学問は知らない、古典と歴史を学べば済むことを話していた。

経営学だけでなく、人の営みにすべてに言えると思う。政治はその際たるもの。今の米国大統領が現れたのも歴史には織り込み済か。

世の中がどう変わろうと、身近な世界で一線を画そう、「自分さえよければ」、「われ先に」とは。

プログラム◆8月4日(月)

開会の辞	9:30 ▼ 9:40	岡村 弘之 (社団法人日本機械学会会長)
特別講演 『ロボットと未来社会』	9:40 ▼ 10:40	アルビン・トフラー (未来学者)
パネルディスカッション 『社会における ロボットの役割』	10:50 ▼ 12:30	<p>人間の創り出した人工物が人間の社会をいかに変革してきたかを概観しながら、未来の人工物の象徴としてのロボットが未来社会にいかなる産業とインフラストラクチャーを構成し、人間の生活をどの様に変えてゆくのかを論じ、社会におけるロボットの在り方を考察してゆく。</p> <p>●座長 石井 威望 (慶應義塾大学教授) ●パネリスト 道家 達将 (放送大学教授) 平井 和雄 (株式会社本田技術研究所常務取締役) 酒井 儀幸 (株式会社ココロ社長) 榎原 伸介 (ファナック株式会社常務理事基礎技術研究所次長) アルビン・トフラー (未来学者)</p>
パネルディスカッション 『ロボットの知能化と未来』	14:00 ▼ 15:40	<p>ロボットの知能の特質を人間や生物の知能と対比しながら論ずることによって、未来のロボットがどの様に知能を獲得してゆき、それが未来社会にどのような衝撃を与えるかを考察してゆく。</p> <p>●座長 松本 元 (理化学研究所副グループディレクター) ●パネリスト ジョージ・ベケイ (南カリフォルニア大学教授) ジョージ・ジラルト (システム解析研究所(LAAS)ディレクター) 西 和彦 (株式会社アスキー社長)</p>
パネルディスカッション 『人間と共存する ロボットの行動原理』	16:00 ▼ 17:40	<p>未来社会に望ましい存在となるロボット、人間と対立するのではなく協調するロボットを実現しようとするとき、ロボットに植え付けるべき行動原理はいかなるものとなるかを多角的に論ずる。</p> <p>●座長 広瀬 茂男 (東京工業大学教授) ●パネリスト 三浦 宏文 (東京大学教授) 小川 和久 (軍事アナリスト) バーナード・ロス (スタンフォード大学教授) 和田 充雄 (北海道大学教授)</p>

プログラム◆8月5日(火)

パネルディスカッション
『フィクションの中のロボット、
その光と影』

10:00

▼
11:40

フィクションはロボットを生み出し、常にロボット工学者に豊富なイマジネーションを供給してきた。このようなフィクションの世界においてロボットはいかに扱われ、未来ロボット化社会はいかに描かれてきたのか。そしてこのフィクションの世界から我々はいったい何を読みとるべきかなどを論ずる。

- 座長 立花 隆 (評論家、東京大学客員教授)
- パネリスト 小松 左京 (作家)
富野 由悠季 (アニメ演出家)
山科 誠 (株式会社バンダイ会長)

パネルディスカッション
『ロボットの心と未来』

13:20

▼
15:00

心とは何か。人間の心の本質とは何か。ロボットに「心」を植え付けられるのか。そして、もしも人工の心が作れるのであれば、それはいったいどのようなものなのか。未来社会において人間と共存するロボットの心の在り方について論ずる。

- 座長 中村 雄二郎 (哲学者、明治大学名誉教授)
- パネリスト ロドニー・ブルックス (マサチューセッツ工科大学教授)
マービン・ミンスキー (マサチューセッツ工科大学教授)
森 政弘 (東京工業大学名誉教授、株式会社自在研究所社長)
藪田 哲郎 (日本電信電話株式会社NTTアクセス網研究所研究部長)

パネルディスカッション
『ロボットと未来に関するビジョン』

15:20

▼
17:20

2日間の議論をふまえ、未来社会における産業とロボット、ロボットが獲得してゆく知能と心の本質などについて参加者全員で再度問題点を整理し、ロボットと未来社会についての新たな提言を行う。

- 座長 立花 隆 (評論家、東京大学客員教授)
- 参加者 招待スピーカー全員 (予定)